

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 82 号

2018 (平成30) 年1月20日 (土)

『楽しいロボット作り』

ほっかいどうきょういくだいがくふぞくしょうがっこう ねん わたなべ はるたろう
北海道教育大学付属小学校 2年 渡邊 春太郎

ぼくは、幼稚園の時に手づくりロボットが対戦するテレビ番組を見てから、ロボットが大好きです。1年半前にロボット教室があることを知り、すぐ入りました。

毎年夏に、ロボット教室の全国大会があります。ぼくは教室で使っている決められた部品を使ってオリジナルロボットを作るコンテストに応募しました。

ぼくが作ったロボットは、5億4100万年前、とても大きくて強かった海の中の生物アノマロカリスをモチーフにして作ったロボマロカリスです。1つのモーターで、体の前の方にある触手を上下に動かし、また、体の左右のひれを魚のエイのようにひらひら動かし、まるで泳いでいるかのように見えます。ロボットを作り始めた時、作りたいロボットが頭の中に浮かびましたが、1週間家庭学習をしないでロボットの事だけ、たくさん考えても、どうしたらできるかわからなくて困りました。お父さんにヒントをもらって何週間かかかってようやくでき上がりましたが、少し進んだら急に動きがゆっくりになり止まってしまいました。その時は教室の先生に原因を教えてもらって治りました。

コンテストはまず7月に予選がありました。ロボットの説明と動いている様子を動画に撮って送り、審査員の先生に見てもらい8月に予選の結果が出ます。

夏休みに教室の先生から全国大会に行けると電話があり、ぼくは「えっ!」とびっくりしました。全国大会は東京大学の安田講堂でした。ホールはとても広くて立派でプレゼンテーションの前は緊張していました。でも、ステージに上がったら緊張は消えて練習通り大きな声で発表できました。ロボットもスムーズに動きました。結果は優秀賞で悔しかったです。最優秀賞や特別賞は、その日友達になった大阪の4年生でした。

今年は、もっとロボットのことを知って、カッコいいロボットを作って最優秀賞か特別賞をもらいたいです。(読みやすいように漢字に変えました)

あけましておめでとうございます。

新しい年がスタートしました。塾生・保護者の皆さんは、このお正月をどう過ごしたでしょうか。

「一年の計は元旦にあり」という昔からの言い伝えがあります。その年の目標を元旦に立てるということです。つまり、一年をどう過ごすかを年の初めである元旦に考えることは、それなりに大切なことだと思います。何事も初めが肝心ですからね。

子供さん達は、いよいよ、まとめの学期です。一年間の総括をきちんとし、自分としっかり向き合っただけへのステップに繋がるように努力してほしいと思います。

「寺子屋・こども論語塾」は、早いもので8年目を迎えました。

昨年12月の7周年記念には、特別企画として塾生による先唱役並びに論語暗記素読発表を行いました。特に論語暗記素読発表では、90字から成る難しい章句を完璧に暗記発表してくれた年長組の矢幅友耀君や小1の光田雪花さんには驚かされました。

最後にいつも坐禅指導をしてくれる大波僧侶がベース演奏で楽しませてくれました。「お坊さん、カッコよかった」という塾生の率直な感想が当日の満ち足りた思いを語っていたように思えます。

【お知らせ】

昨年11月の論語塾に久しぶりに陶恵敏さんが参加され、漫画の本と飴を塾生・保護者の皆さんにとプレゼントして下さいました。12月の論語塾で全員にお渡ししました。

陶さんに、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

※ 来月(2月)より塾生紹介を再開します。矢幅友耀君と安藤凜さんと共に幼稚園年長組です。